

令和6年度 専門研修（断続研修）保健体育研修講座

「研究構想と主題の設定」

令和6年5月14日（火）
福岡県体育研究所

令和6年度 専門研修（断続研修）保健体育研修講座

「研究構想と主題の設定」

令和6年5月14日（火）
福岡県体育研究所

【研究のまとめ方】

授業構想ワークシートの活用

1 主題設定の理由

- (1) ○○○から
- (2) ○○○から

2 主題・副主題の意味

- (1) 主題の意味
 - ア ○○○について
 - イ ○○○について
- (2) 副主題の意味
 - ア ○○○について
 - イ ○○○について

3 研究の目標

- 4 研究の仮説
- 5 研究構想図
- 6 研究の実際と考察
- 7 研究のまとめ

- (1) 成果
- (2) 課題

令和6年度専門研修（断続研修）保健体育研修講座
授業構想ワークシート

学校名
姓・氏名

1. 本授業の目的（なぜ、そのような授業・学習を学んでようと思ったのか）
これまでの学習から見える児童・生徒の学習や指導の状況（課題）
期待する学習成果、今後の指導等、現行における課題、生徒の学習状況、教育の場における研究主題、研究の進め方などについての内容を振り返り記述する。

2. 本時の授業（主題 → 目的が児童・生徒の姿 → 研究の対象・分野・分野等）

3. 目指す児童・生徒の姿・学びたい姿（学習目標等）

4. 授業案（仮定）

主題設定と副主題（例）

主題

自己有用感を高める生徒指導の一考察

目指す児童・生徒の姿

研究の対象（領域や分野）

副主題

～保健体育科学習における「ポジティブトーク」の活用を通して～

手だて

主題設定の理由	主題・副主題の意味	研究の目標	研究の仮説	研究構想回	研究の実際 結果・考察	研究の まとめ
<h2>1 主題設定の理由</h2> <h3>(1) 子供の現状から</h3> <p>自分が友人や学級の役に立っていると実感できていない。 <small>(在籍校における生徒の実態 QUアンケートより)</small> 自己有用感を育むことも極めて重要です。 <small>(生徒指導提要 14ページ)</small> 人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒は多い。 <small>(令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書【質問調査紙】)</small></p> <h3>(2) 教育の動向から</h3> <p>自分の前向きな言動は、他者や集団に対してよい影響を与えていると感じ、自分のことを肯定的に捉えることができる生徒を育成したいと考えた。そのためには自己有用感を高めることが重要であると考え、本主題を設定した。</p>						

主題設定の理由	主題・副主題の意味	研究の目標	研究の仮説	研究構想回	研究の実際 結果・考察	研究の まとめ
<h2>2 主題・副主題の意味</h2> <h3>自己有用感を高める生徒指導の一考察</h3> <h3>(1) 主題の意味</h3> <p>ア「自己有用感」 他者や集団との関係の中で、自己の姿を肯定的に受け止める感覚のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者や集団に対して、自分が役に立つ行動をしていると実感している生徒 【貢献感】 他者や集団から、自分の行動や存在が認められていると実感している生徒 【承認感】 他者や集団の中で、自分は大切な存在であると思うことができる生徒 【存在感】 						

主題設定の理由	主題・副主題の意味	研究の目標	研究の仮説	研究構想回	研究の実際 結果・考察	研究の まとめ
<h2>2 主題・副主題の意味</h2> <h3>自己有用感を高める生徒指導の一考察</h3> <h3>(1) 主題の意味</h3> <p>イ「自己有用感を高める」 他者の存在や他者との関わりを前提にして生まれるものであり、良好な人間関係の中で他者に役立つような行動をし、それが他者に認められることによって他者や集団における存在感が高まること</p>						

主題設定の理由	主題・副主題の意味	研究の目標	研究の仮説	研究構想回	研究の実際 結果・考察	研究の まとめ
<h2>2 主題・副主題の意味</h2> <h3>保健体育科学習における「ポジティブトーク」の活用を通して</h3> <h3>(2) 副主題の意味</h3> <p>ア 保健体育科学習における「ポジティブトーク」 他者と関わりながら「役に立つような行動をした」「認められた」「自分はこれでいいんだ」という自己に対して肯定的な感覚を実感するために、前向きな考えと言葉を使って目標設定と相互評価する活動のことである。</p>						

主題設定の理由 主題・副主題の意味 研究の目標 研究の仮説 研究構想回 研究の実際結果・考察 研究のまとめ

2 主題・副主題の意味

保健体育科学習における「ポジティブトーク」の活用を通して

(2) 副主題の意味

イ 「ポジティブトーク」の活用を通して

貢献感、承認感、存在感(以下、三つの感覚)を実感するために、実践する教科の目標に応じて活動形態をその都度設定し、毎時間の導入と終末に位置付け、継続して積み重ねることである。

主題設定の理由 主題・副主題の意味 研究の目標 研究の仮説 研究構想回 研究の実際結果・考察 研究のまとめ

3 研究の目標

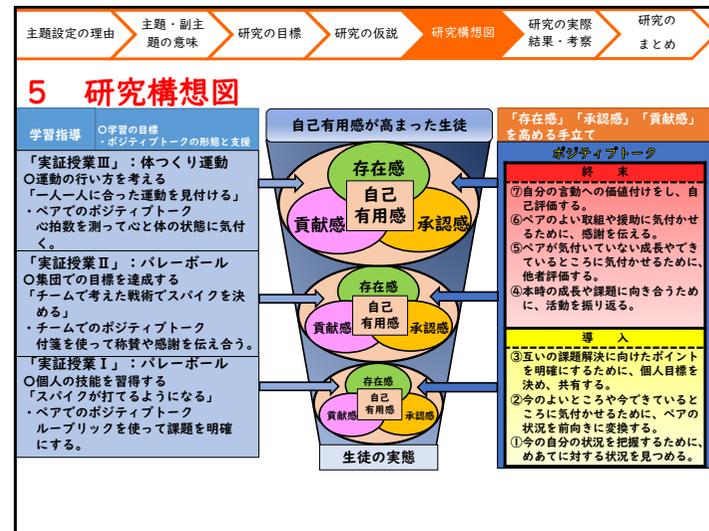
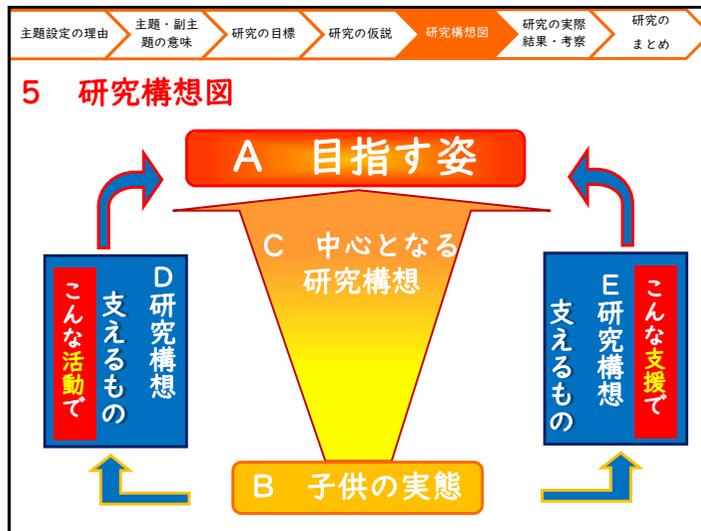
生徒の自己有用感を高めるために、保健体育科学習において1単位時間における導入と終末で活用する「ポジティブトーク」の有効性を検証する。

(目指す姿)に迫るために、(対象の領域・分野)において、(手だて)の在り方を究明する。

4 研究の仮説

保健体育科学習において、1単位時間における導入と終末で「ポジティブトーク」を活用すれば、生徒の貢献感、承認感、存在感が高まり、生徒の自己有用感が高まるだろう。

(対象の領域・分野)において、(手だて)を行えば、(目指す姿)を育てることができるだろう。



主観設定の理由 主観・副主観の意味 研究の目標 研究の仮説 研究構想回 研究の実際 結果・考察 研究のまとめ

6 研究の実際 / 結果と考察

対象生徒 A立B中学校 2年C組 39名

検証の方法
検証は、実証前後に行った三つの感覚に関するアンケート(4件法)、生徒の発言や行動、学習プリントの記述、授業後の生徒へのインタビューの分析で行う。

抽出生徒
事前調査において貢献感、承認感、存在感ともに低い数値であった生徒Aを抽出生徒とする。

主観設定の理由 主観・副主観の意味 研究の目標 研究の仮説 研究構想回 研究の実際 結果・考察 研究のまとめ

6 研究の実際 / 結果と考察

学習指導 ○学習の目標 ポジティブトークの形態と支援

「実証授業Ⅲ」：体づくり運動
○運動の行い方を考える
「一人一人に合った運動を見付ける」
・ペアでのポジティブトーク
心拍数を測って心と体の状態に気付く。

「実証授業Ⅱ」：バレーボール
○集団での目標を達成する
「チームで考えた戦術でスパイクを決める」
・チームでのポジティブトーク
付箋を使って称賛や感謝を伝え合う。

「実証授業Ⅰ」：バレーボール
○個人の技能を習得する
「スパイクが打てるようになる」
・ペアでのポジティブトーク
ルーブリックを使って課題を明確にする。

自己有用感が高まった生徒

存在感
自己有用感
承認感

「存在感」「承認感」「貢献感」を高める手立て

①自分の活動への価値付けをし、自己評価する。
②ペアのよい取組や援助に気付かせるために、感謝を伝える。
③ペアが気付いていない成長やできているところに気付かせるために、他者評価する。
④本時の成長や課題に向き合うために、活動を振り返る。

③互いの課題解決に向けたポイントを明確にするために、個人目標を決め、共有する。
②今のよいところや今できているところに気付かせるために、ペアの状況を前向きに変換する。
①今の自分の状況を把握するために、めあてに對する状況を見つめる。

生徒の実態

主観設定の理由 主観・副主観の意味 研究の目標 研究の仮説 研究構想回 研究の実際 結果・考察 研究のまとめ

6 研究の実際

実証授業Ⅰ 球技(バレーボール)

個人の技能を習得する

スパイクを身に付ける
互いを援助し合って目標を達成する

ペアでポジティブトーク
目標設定 相互評価

ルーブリックを使って課題を明確にする

存在感
自己有用感
承認感
貢献感

主観設定の理由 主観・副主観の意味 研究の目標 研究の仮説 研究構想回 研究の実際 結果・考察 研究のまとめ

6 研究の実際

実証授業Ⅰ 球技(バレーボール)

個人の技能を習得する

導入でのポジティブトーク 目標設定

生徒A 生徒Aのペア

生徒Aの学習プリント

ねらいと方法	①今の自分の状況を把握するためにめあてに對する状況を見つめる。	②今のよいところやできているところに気付かせるために、ペアの状況を前向きに変換する。	③互いの課題解決に向けたポイントを明確にするために、個人目標を決め、共有する。
生徒Aとペアの記述内容	ステップができるか不安。(生徒A)	一緒に練習しよう。(ペア)	ステップを練習する。声掛け(教え合う)。(生徒A) 楽しもう。(生徒A)

主観設定の理由 主題・副主題の意味 研究の目標 研究の仮説 研究構想回 研究の実際 結果・考察 研究のまとめ

6 研究の実際

実証授業Ⅰ 球技(バレーボール)

個人の技能を習得する

終末でのポジティブトーク 相互評価



生徒A 生徒Aのペア

生徒Aの学習プリント

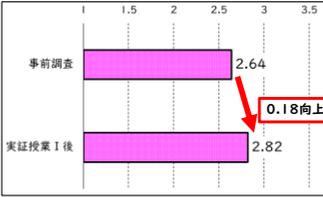
ねらいと方法	④本時の成長や課題に向き合うために、活動を繰り返す。	⑤ペアが気付いていない成長やできているところに気付かせるために、他者評価する。	⑥ペアのよい取組や運動に気付かせるために、感謝を伝える。	⑦自分の行動への価値付けをし、自己評価する。
生徒Aとペアの記述内容	前よりできていてうれしかった。 (生徒A)	前よりも絶対にうまくなったよ。 (ペア)	最後まで全力で教えてくれてありがとう。 (ペア)	チームの人たちのおかげで自分も上達していると思う。 (生徒A)

主観設定の理由 主題・副主題の意味 研究の目標 研究の仮説 研究構想回 研究の実際 結果・考察 研究のまとめ

6 結果と考察 (貢献感) 数値の変容から

実証授業Ⅰの考察

アンケートの数値による貢献感の変容



事前調査 2.64

実証授業Ⅰ後 2.82

0.18向上

授業後の生徒の声

教師
「どんなアドバイスをしたの。」
生徒A
「肘をまっすぐにとアドバイスしました。」

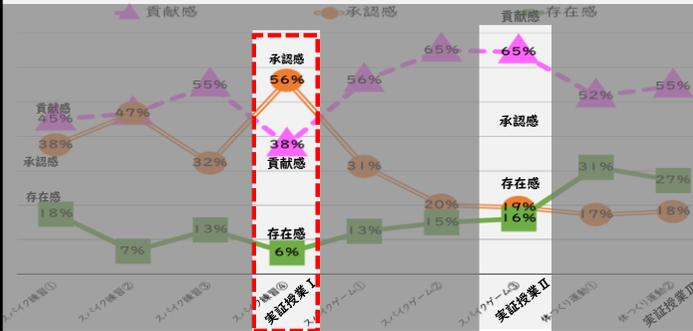
「アドバイスをして仲間が以前より強いスパイクを打てるようになっていた。」

ルーブリックを使って技能向上へのポイントを明確にした上で、終末に相互評価をしたことが貢献感の実感に効果があった。

主観設定の理由 主題・副主題の意味 研究の目標 研究の仮説 研究構想回 研究の実際 結果・考察 研究のまとめ

6 結果と考察 (全体考察) 数値の移り変わりから

全体考察 一番強く感じている感覚の割合の推移



項目	1 (準備)	2 (準備)	3 (準備)	4 (準備)	5 (準備)	6 (準備)	7 (準備)	8 (準備)	9 (準備)	10 (準備)
貢献感	4.5%	4.7%	5.5%	5.6%	6.5%	6.5%	5.2%	5.5%		
承認感	3.8%	3.2%	3.8%	3.1%	2.0%	1.9%	3.1%	2.7%		
存在感	1.8%	7%	1.3%	1.3%	1.5%	1.6%	1.7%	1.8%		

主観設定の理由 主題・副主題の意味 研究の目標 研究の仮説 研究構想回 研究の実際 結果・考察 研究のまとめ

6 結果と考察 (全体考察)

*児童・生徒の様子(写真・表現物・つぶやき等)は、考察に必要なもののみ提示し、それ以外に提示したものは発表スライドに入れてください。

主
題
設
定
の
理
由

主
題
・
副
主
題
の
意
味

研
究
の
目
標

研
究
の
仮
説

研
究
構
想
回

研
究
の
実
際
結
果
・
考
察

研
究
の
ま
と
め

6 結果と考察 (全体考察)

以上のことから、保健体育科学習における1単位時間の中にポジティブトークを位置づけ、相互で評価しあう活動を位置づけたこと(手だて)は、自己有用感を高める(目指す姿)上で有効であったと考える。

主
題
設
定
の
理
由

主
題
・
副
主
題
の
意
味

研
究
の
目
標

研
究
の
仮
説

研
究
構
想
回

研
究
の
実
際
結
果
・
考
察

研
究
の
ま
と
め

6 結果と考察 (全体考察)

研究の成果

ポジティブトークは貢献感、承認感、存在感を実感し、自己有用感を高めるために有効であった。

個人技能習得に向けたポジティブトークの活用では、特に承認感の実感に効果があった。

集団での目標達成に向けたポジティブトークの活用では、特に貢献感の実感に効果があった。

主
題
設
定
の
理
由

主
題
・
副
主
題
の
意
味

研
究
の
目
標

研
究
の
仮
説

研
究
構
想
回

研
究
の
実
際
結
果
・
考
察

研
究
の
ま
と
め

6 結果と考察 (全体考察)

研究の課題

他の運動領域での有効性の確認が必要である。

ポジティブトークを他の教科や領域、行事などでも活用できるようにするための改善が必要である。

令和6年度 専門研修(断続研修)保健体育研修講座

「研究構想と主題の設定」

令和6年5月14日(火)
福岡県体育研究所

主題設定について

令和6年度専門研修（新課程研修）基礎体育研修講座
授業構想ワークシート

学校名
職・氏名

1 主題設定の理由（なぜ、そのような児童・生徒を育てようと思ったのか）
今までの指導から見える児童・生徒の強みや得意な得意（課題）
新学習指導要領、各種教育雑誌等、現代社会の課題、学校の教育目標、教育の動向
学校や研究主題、研究の進み具合等からいってこの主題を以て設定する。

2 主題の設定（主題 → 目的や児童・生徒の姿 → 研究の対象・学年、領域等）

3 目的や児童・生徒へ伝えたい内容（大まかな構想）

4 留意点（手帳で）

25

主題設定の理由について

◎ どんな児童・生徒を育成するのか？

- <現代社会の要請から>
- <教育の動向から>
- <新学習指導要領から>
- <各種教育雑誌等から>
- <学校の教育目標から>
- <子供の現状から>
- 等



主題設定の理由について

◎ どんな児童・生徒を育成するのか？
<子供の現状から>



- ▲ 全国の子童生徒の体力の現状から
- ▲ 福岡県の体力の現状から

主題設定の理由について

◎ どんな児童・生徒を育成するのか？
<学習指導要領> <各種教育雑誌等から>



主題設定について

令和6年度専門研修（新設研修）保健体育研修講座 授業構想ワークシート	
	学校名 職・氏名
1 本題設定の理由（なぜ、そのような児童・生徒を育てようと考えたのか） これまでの指導から見える児童・生徒の実態や指導の反省（課題） 新学習指導要領、各種教育議論等、現代社会の課題、学校の教育目標、教育の動向 学校や研究主題、研究の積み上げ等からいっての必要性を上げて記述する。	
2 本題の設定（主題 → 目指す児童・生徒の姿 ← 研究の対象（学年、領域等））	
3 目指す児童・生徒へ迫るための方法（大まかな構想）	
4 副主題（手だて）	

29

主題設定について

主題 → 目指す児童・生徒の姿

学びを深め、動きの高まりを実感できる保健体育科学習指導

目指す児童・生徒の姿

研究の対象（学年、領域）

では・・・

副主題

→ 目指す児童・生徒へ迫るための方法（手だて）

副主題設定について

令和6年度専門研修（新設研修）保健体育研修講座 授業構想ワークシート	
	学校名 職・氏名
1 本題設定の理由（なぜ、そのような児童・生徒を育てようと考えたのか） これまでの指導から見える児童・生徒の実態や指導の反省（課題） 新学習指導要領、各種教育議論等、現代社会の課題、学校の教育目標、教育の動向 学校や研究主題、研究の積み上げ等からいっての必要性を上げて記述する。	
2 本題の設定（主題 → 目指す児童・生徒の姿 ← 研究の対象（学年、領域等））	
3 目指す児童・生徒へ迫るための方法（大まかな構想）	
4 副主題（手だて）	

31

副主題設定について

課題解決学習過程におけるICTの活用を通して

- ・動きのポイントを可視化し、明確にする。
- ・話し合い活動の目的を明確にする。

どうすれば改善できるか？

- ・自己の課題が把握できず、どのようなことをすればよいか理解できていない
- ・動きを高めたり、学びを深める話し合い活動になっていない

令和6年度 専門研修（断続研修）保健体育研修講座

「研究構想と主題の設定」

令和5年5月14日（火）
福岡県体育研究所